

『もしも会員』に入会していたお陰で、 慌てることなく急逝した父を、無事に見送る ことができて、本当によかったです」

昨年、最愛のお父様を突然亡くされ、大野屋に家族葬を託していただいた森山英子様は、ご逝去からお葬式に至るまでのお話を伺いました。

神奈川県横浜市在住

森山 英子様



「大野屋さんにお任せした父のお葬式は、親族にとりましても、とても印象的なものだったらしく、その後、弟や妹も『もしも会員』に入会したんですよ」

「哀しみと慌ただしさの中で、何もかもお任せできるという安心感がありました」

ワインソムリエとして国内外で活躍されている森山英子様は、大野屋のお客様であるとともに、当社がお葬式の際に提供するワインメニューのプロデュースをお願いしており、お仕事のうえでもよきパートナーとしておつき合いをさせていただいています。

「そもそもお仕事でのご縁があったことで、ある時スタッフの方から、大野屋さんに『もしも会員』というサービスがあることを教えていただいたんです。入会金や年会費などもなく、お葬式などの事前相談にもなっていただけのことでしたので、自分だけでなく、私の方で手続きをして、両親も入会させていただきました」

森山様はご両親に入会の申し込み



をしたことをお伝えし、さらにご両親にとってはご長男に当たる弟さんにも、その旨を御連絡されたそうです。「両親も高齢ですし、もしいざとい

う時に喪主を務めるのは弟です。嫁いだ妹は夫の海外赴任に伴ってシンガポールにおりますし、私にしたところで、いつながあってもおかしくないというご時世でもありますから、そのときに備えて、家族で情報を共有しておいたほうが良いと思ったんですね。

その後、スタッフの方のお打ち合わせを重ねる中で、葬儀についての両親の意向なども伝えさせていただきました。

そして昨年の九月のこと。お父様は腰骨を骨折され、一カ月の入院を余儀なくされました。折しも森山様は、十日間ほどのフランス出張を控えていた時期。

「でも、重篤な病気ということでもなく、整形外科的な治療を終えたら、あとはリハビリをしながら快復を待つという状態でしたので、母や私の娘は『こちらでちゃんと看ているから、心配しないで行ってらっ

しい』と送り出してくれました」

しかしフランスに着いてからほんの数日後、ご家族から突然、お父様危篤の一報が入りました。

「なんだか変な話ですが、私は前々から、なんとなく死に目に会えないような気がしていたんです。骨折が原因ではなく、それはまた別に、急に具合が悪くなったようなのですが、母も娘も、今帰ってきて、たぶん間に合わないだろうから、仕事をちゃんと終えてから帰国すればいいと。」

というわけで、とりあえず大野屋さんのご担当の方に国際電話を入れ、訃報が届いた時点で、また御連絡させていただいたところ、『すぐに向かわせていただきます』とおっしゃっていたので、何もかもお任せできることに本当に安心しました。また、『もしも会員』に入会しておいて本当によかったですね」

「遺族の気持ちにぴたりと寄り添った、きめ細やかで温かな目配りに感謝です」

お父様のお葬式は大野屋の家族葬専用会場『フューネラルリビング横浜』にて執り行われましたが、当時を振り返り、ご遺族として、またワインソムリエという、いわばサービスのプロフェッショナルとしてのお立場から、森山様は当社のお葬式を



フューネラルリビング横浜

どのようにご覧になられたのでしょうか。 「実家は千葉なのですが、私からの連絡を受けて、スタッフの方がいち早く横浜から駆けつけてくださったのもありがたかったです。フランスにいないがらにして、逐一ご連絡をいただいたので様子もよく判りましたし、父についていた母や娘もさぞかし心強かったことと思います。お葬式の当日も、いわゆるマニュアル通りの対応というのではなく、私たち遺族が緊張したり、右往左往したりしているのをしっかりとフォローしてくださったのも心強かったですね」

お写真や愛用の品が飾られ、「残された家族が湿っぽくならないように」とのご配慮からBGMに選ばれていたアルゼンチンタンゴが流れるお式は、在りし日のお人柄が偲ばれるような、温かなものでした。 「また、精進落としには弔問の方に、おいしいものをたくさん召し上がって欲しいとも父は言っておりましたので、お料理についてはランクをひとつ上げたのですが、これも素晴らしいとおいしくて、お寿司は板前さんが目の前で握ってくれますし、ステーキなども焼き立てで…。哀しい時で



「大野屋さんがお葬式に提供するワインとして、おいしくて、お値段も手頃、そして和食にも洋食にも合うものを、ご提案させていただいています」

も、人間っておいしいものを食べると元気になるんですね。お料理に合わせるワインは私が選んだものですが、もとより私がワインの仕事に、つくことを一番応援してくれたのは父でしたし、いい親孝行になったのではないかと思っています。父の弟、つまり私の伯父ですが、しみじみと『自分の時もこんなお葬式がいいな』と言っていましたね」

「四十九日までにはすべきこともすっかりサポートしていただき、きずかりました」

「お葬式のあとも、香典返しに相談に乗っていただいたり、位牌についてもこちらのイメージに合うものを探していただいたり、四十九日までになすべきことを、すべて列記したカレンダーをくださったりと、至れり尽くせり。

家族葬というのは、小規模ですが、大きなお葬式をそのまま小さくするのはなく、まったく別のスタイルの手作りのお葬式だということを改めて実感しました。またよいお葬式というものは、亡くなった人のためだけでなく、見送る人たちが、故人をこれからもずっと心に想い続けるためのものもあるんですね」と、森山様。今後とも、森山様にお寄せいただいたような信頼に応えられる大野屋でありたいと願っております。